

拠点形成活動 情報基盤、評価システム、国際交流

学際コミュニケーション・サイエンスカフェ

代表者：小林 俊哉（科学技術開発戦略センター 准教授）

活動内容

- 学問分野間、異なる組織間の壁を越えるためのコミュニケーションスキル育成方法の検討 -

地球環境問題、資源エネルギー問題等、従来の文系、理系の縦割りの学問体系では対処しきれない課題が20世紀末以来増加してきている。

例えば地球環境問題は、温暖化問題にも象徴されるように技術的側面の課題のみならず、省エネ政策を進める上での社会的側面・産業的側面、日常生活のあり方の変革に関わる文化的側面等対処すべき課題は、多岐に亘り、これらの課題に取り組むべき学問分野も理工学の諸分野から、政治経済、社会、法学等の人文・社会科学諸分野までの取り組みが不可欠である。さらにこれらの文理の学問間の有機的連携も必須である。

こうした傾向は今世紀において一層強まることが予測される。この社会的ニーズに応じて本学際コミュニケーションにおいては、学問分野間、異なる組織間の壁を越えるためのコミュニケーションスキルの育成方法を検討していく。

「学際コミュニケーション論」への展開

第一段階：コミュニケーションモデル構築

自己のこれまでの専門分野について話題提供を行い、それを素材にグループ・ディスカッションを実施。その経験を通して、専門分野の違う他者に知識・情報を伝達することの困難と重要性を認識させる。次に、いかなる表現や説明方法が必要かをグループ・ディスカッションの中で明らかにしていく。

第二段階：プロブレム・ソルビングモデル構築へ

省庁や自治体が具体的に提起し公募する社会的研究課題を取り上げ、それを基にグループ分けして（異分野同士のグループを形成）、当該課題に関する「研究計画書」を作成、それは全受講者の講評に供する。全体講評後、本講義の評価対象の一つとなる個別プロブレム・ソルビング研究計画書のテーマを受講者に公表する。

【講義】

科学技術政策・科学論

先ず異なる学問分野間のコミュニケーションを必要とする社会的背景を把握する。そのために、科学技術政策、科学技術モード論等の必要最低限の知識を修得する。

プロブレム・ソルビング構築論

社会が提起する課題解決のための科学技術のあり方として、近年、「社会技術」、「公共技術」、「政策科学論」等の様々な概念が提案され、その一部は既実践に供されている。できる限り具体的事例に即して、その概要を把握し、それによって課題解決にあたり方法論を修得せしめる。

【実践演習】

具体的課題設定をし、実際に学際間コミュニケーションを実践しプロブレム・ソルビングのモデルを構築。

サイエンスカフェの実施

専門家を交えて話し合う、新しいタイプのシンポジウム。『サイエンスカフェ石川』では活動を通して専門家の知見や大学の研究により得られた成果を発表し、地域活動の声を研究にフィードバックすることで相互交流・相互理解を目指す。

研究メンバー

碓谷 勝（ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 研究員）
鶴岡 洋幸（科学技術開発戦略センター 研究員）
SUN, Jiasheng（知識科学研究科 博士後期課程 RA）
大仁田 耕一（知識科学研究科 博士前期課程）2007年9月まで
武田 康裕（知識科学研究科 博士前期課程）
イノベーション研究プロジェクト-RA